EVENT SCHEDULE

イベント会場

9:30	9:55 中継（開会宣言）
10:00	10:15-10:30 中継（オープニングセレモニー）
10:30	10:40-11:30 基調講演 「大学を中心とした オープンイノベーションによる産学連携」
11:00	
11:30	11:40-13:00 ラウンドテーブルセッションⅠ 「コンピュータに騙される人間の脳 ―バーチャルリアリティとロボットに見る」
12:00	
12:30	
13:00	
13:30	13:30-14:30 メインイベント 「新国立競技場をつくる」
14:00	
14:30	14:50-16:00 ラウンドテーブルセッションⅡ 「KLLが始めるエンジェル活動と 理工発ベンチャーを考える」
15:00	
15:30	
16:00	
16:30	
17:00	

セミナー会場

9:30	9:55 中継（開会宣言）
10:00	10:15-10:30 中継（オープニングセレモニー）
10:30	
11:00	11:00-11:30 連携技術セミナー 「PM2.5粒子による 健康影響メカニズムを探る」
11:30	
12:00	11:40-13:00 中継（ラウンドテーブルセッションⅠ）
12:30	
13:00	
13:30	13:30-14:30 中継（メインイベント）
14:00	
14:30	14:50-15:20 連携技術セミナー 「ユビキタス光センシング技術が つくる未来のカタチ」
15:00	
15:30	15:40-16:10 連携技術セミナー 「ナノカーボン材料による 次世代光・電子デバイス開発」
16:00	
16:30	16:40-17:10 連携技術セミナー 「超音波気泡の力学特性を利用した 洗浄および食品加工」
17:00	

※当日、やむを得ない事情により各イベント・セミナーの内容等を変更する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

1日限りの展示会を
有意義なものにするために
さまざまな展示を企画！

応用化学系グループ展示ゾーン

「健康」と「美」にコミットする
応用化学の分子、マテリアル、
システムデザイン研究

理工学部 応用化学科
分子 准教授 犀川 陽子/助教 小椋 章弘
マテリアル 教授 チッテリオ・ダニエル/助教 福井 有香
システム 教授 朝倉 浩一/助教 伴野 太祐

「健康で美しく生きたい」、老若男女を問わず誰でも望んでいるはずです。
その実現に大きな役割を果たすのが、医療、薬品、化粧、食品などの新技術です。応用化学は、ナノ以下の分子から、それが集合したマテリアル、さらには巨大なシステムまで、あらゆるスケールの技術開発を支えます。
有機・無機や高分子・低分子といった枠組みにとらわれない慶應応用化学6件のグループ展示とミニプレゼンテーション、どうぞご期待ください。

ミニプレゼンテーション

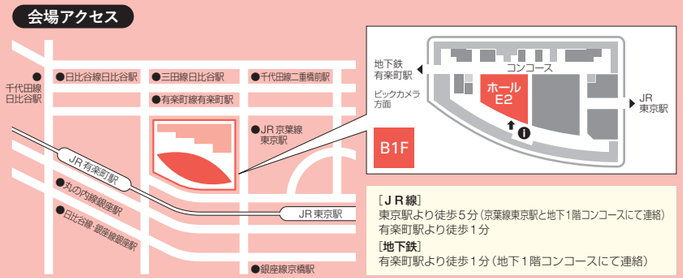
① 10:30−11:00　② 14:30−14:50
③ 15:20−15:40　④ 16:10−16:40

創造クラスターゾーン

慶應義塾大学は、文部科学省の2014年度「スーパーグローバル大学創成支援」事業に世界レベルの教育研究を行うトップ大学（タイプA）として採択されました。この事業の下、長寿・安全・創造の分野で慶應義塾大学の強みを活かし世界に貢献してまいります。
会場では、創造クラスターで行われているグローバルスマート社会創造プロジェクトの研究活動をご紹介します。

▶▶ 展示テーマは中面をチェック！

会場アクセス



［JR線］
東京駅より徒歩5分（京葉線東京駅と地下1階コンコースにて連絡）
有楽町駅より徒歩1分
［地下鉄］
有楽町駅より徒歩1分（地下1階コンコースにて連絡）

［主催・お問い合わせ］
慶應義塾先端科学技術研究センター（KLL）
（慶應義塾大学理工学部・大学院理工学研究科）
〒223-8522 神奈川県横浜市港北区日吉3-14-1
Tel: 045-566-1794　Fax: 045-566-1436
E-mail: ktm@kll.keio.ac.jp

www.kll.keio.ac.jp/ktm/

慶應テクノモール

第17回 慶應科学技術展
KEIO TECHNO-MALL 2016

育てる産学

育つ夢

入場無料

ゲストトークセッション

ラウンドテーブルセッション
「コンピュータに騙される人間の脳 ―バーチャルリアリティとロボットに見る」
ゲスト：茂木 健一郎 氏

メインイベント
「新国立競技場をつくる」
ゲスト：隈 研吾 氏

©PEY INADA

12.16［fri］ 10:00 ▼ 18:00

東京国際フォーラム 地下2階（ホールE2）

内容
大学最大規模の100件を超える実演中心の展示、研究者による技術セミナー・ラウンドテーブル

www.kll.keio.ac.jp/ktm/

EXHIBITION THEMES

会場では、実物展示やデモンストレーションを中心としたブース展示とパネル展示にて研究成果や技術をご紹介。
最先端技術やアイディアの宝庫である理工学研究をご体験いただけます。

創造クラスターゾーン　応用化学系グループ展示ゾーン

エレクトロニクス

グラフェンのLSI配線応用のための材料・デバイス・シミュレーション技術
電子工学科 教授 粟野 祐二

スピントロニクス研究センター
物理情報工学科 教授 伊藤 公平

電子デバイス用Technology Computer Aided Design（TCAD）ツールの開発
物理情報工学科 教授 伊藤 公平

呼気による健康状態チェックを可能とする小型・低電力の低分子センサシステム
電子工学科 教授 内田 建

サイバーフィジカルICT：通信と制御の融合
（スマートクラスタプロジェクト）
電子工学科 専任講師 久保 亮吾

伝送線路結合器を用いた高信頼非接触通信
電子工学科 教授 黒田 忠広

高感度光センサ・高繰り返し光パルス光源
電子工学科 准教授 田邉 孝純

福祉機器制御システム
～高機能義手の開発～
システムデザイン工学科 助教 野崎 貴裕

電荷ドーピングに基づく有機トランジスタのデバイス設計及び国際標準化
電子工学科 准教授 野田 啓

ダイヤモンドを用いた高感度磁場イメージング
物理情報工学科 准教授 早瀬 潤子

福祉機器制御システム
～人の動作解析と制御～
システムデザイン工学科 教授 村上 俊之

分散リアルタイム処理用Responsive Multithreaded Processor
情報工学科 教授 山崎 信行

メカニクス

マルチタレット型複合加工機（ターニング・ミーリング）による複雑形状の簡易・確実・高精度な知的加工システムの研究開発
システムデザイン工学科 教授 青山 英樹

超精密加工と知能化加工システム
システムデザイン工学科 准教授 柿沼 康弘

生活支援ロボット
システムデザイン工学科 准教授 中澤 和夫

気相高強度ナノクラスター源Nanojima®の開発および新規ナノ材料の合成への展開
化学科 教授 中嶋 敦

情報コミュニケーション

GPU同士を直接接続してスーパーコンピュータを作るスイッチPEACH
情報工学科 教授 天野 英晴

エクサフロップススケールコンピューティングを可能にするポリマー光導波路デバイス
物理情報工学科 准教授 石榑 崇明

インタラクティブインテリジェントシステム
情報工学科 教授 今井 倫太

豊かなデジタル社会を守る、未来のデータ伝送プラットフォーム
情報工学科 専任講師 金子 晋丈

次世代コンテンツサービス
情報工学科 専任講師 金子 晋丈

超高速・超高画質を支えるフォトニクスポリマー
物理情報工学科 教授 小池 康博

3次元画像センシングによる物体認識/拡張現実表示
情報工学科 教授 斎藤 英雄

高信頼性を有するIoTの実現に向けたセキュアアクセス制御方式
情報工学科 教授 笹瀬 巌

高度交通システム（ITS）における走行経路案内システム
情報工学科 教授 重野 寛

Wrap & Sense：バンド型センサによる把持データ収集システム
情報工学科 助教 杉浦 裕太

Dollhouse VR：複数人で協調して空間をレイアウトするシステム
情報工学科 助教 杉浦 裕太

集合視解析のための三次元視線計測技術
情報工学科 准教授 杉本 麻樹

反射型光センサとばねを用いた身体膨張の計測
情報工学科 准教授 杉本 麻樹

AffectiveWear：日常における装着者の表情識別を可能にする眼鏡型装置
情報工学科 准教授 杉本 麻樹

Tバンド、Oバンドによる大波長空間利用技術の開発
電子工学科 教授 津田 裕之

ZINK on ZNA：新世代ネットワークアーキテクチャにおける帯域共有率の高いコンテンツ配信基盤技術
情報工学科 教授 寺岡 文男

知識ベースシステムを利用したオープンデータ指向ネットワーク管理基盤
情報工学科 教授 寺岡 文男

Email＋SQL＝RMX
情報工学科 准教授 遠山 元道

WIX（Web Index）によるWebエコシステム
情報工学科 准教授 遠山 元道

スマートコミュニティの地域実証
システムデザイン工学科 教授 西 宏章

スマートコミュニティの基盤技術
システムデザイン工学科 教授 西 宏章

LMML：計算法科学可視化環境
情報工学科 教授 藤代 一成

多様な構造型ストレージ技術を統合可能な再構成可能ハードウェア
情報工学科 専任講師 松谷 宏紀

IoT環境情報計測システム
物理情報工学科 教授 松本 佳宣

脳波とVRを融合させた新しい世界観
～スマートスペースになりうるか？!～
システムデザイン工学科 准教授 満倉 靖恵

読みたい漫画を察知するマンガリコメンドアプリ
システムデザイン工学科 准教授 満倉 靖恵

広域LANにおける実時間通信とIP通信の両立
システムデザイン工学科 准教授 矢向 高弘

変調照明を用いた単一画像からの光学移動量計測法
システムデザイン工学科 准教授 矢向 高弘

実践知能アプリケーション開発プラットフォーム：PRINTEPS
管理工学科 教授 山口 高平

IoT時代における高信頼なリアルタイムコンテンツ取引
情報工学科 教授 山中 直明

Atomic NFV
～ネットワーク機能の超細分化・超分散化～
情報工学科 教授 山中 直明

プログラマブル光エッジが実現する低コストで省エネルギーな光ネットワーク
情報工学科 教授 山中 直明

Social Thingsと情報の利活用
情報工学科 教授 山中 直明

複数事業者に跨る拡張性の高いネットワーク連携制御技術
情報工学科 教授 山中 直明

HOLST：超高速光スイッチによる省電力データセンタネットワーク
情報工学科 教授 山中 直明

ネットワーク仮想化環境における省エネルギー仮想リンク資源割当手法の研究
情報工学科 教授 山中 直明

バイオメディカル

つまった血管を確実に治す：血管加温療法
物理情報工学科 教授 荒井 恒憲

身体の奥底まで治療する：革新的プローブ技術
物理情報工学科 教授 荒井 恒憲

心臓の動きを正常に戻す：PD ABLATION®
物理情報工学科 教授 荒井 恒憲

温度で見守り：低解像度赤外線センサ
情報工学科 教授 大槻 知明

電波で見守り：アレーセンサ
情報工学科 教授 大槻 知明

ワイヤレスヘルスモニタリング
情報工学科 教授 大槻 知明

PM2.5粒子による健康影響メカニズムを探る
応用化学科 准教授 奥田 知明

自由自在に分子を組み上げる
―有機合成化学の力
応用化学科 助教 小椋 章弘

ライフサイエンス研究に役立つマイクロ熱流体デバイスの開発
システムデザイン工学科 准教授 田口 良広

超音波振動を用いた細胞培養技術
機械工学科 准教授 竹村 研治郎

医療・環境分析に向けた化学センサーおよびバイオセンサーのための機能性材料
応用化学科 教授 チッテリオ・ダニエル

インクジェットプリント技術による医療・環境分析用化学センサー
応用化学科 教授 チッテリオ・ダニエル

UV/オゾンを活用するiPS細胞のための培養基材の創成
機械工学科 准教授 宮田 昌悟

マテリアル

自己組織化現象が拓く新たなコスメティックサイエンス
応用化学科 教授 朝倉 浩一

金属のための表面改質技術
機械工学科 教授 小茂鳥 潤

はじく・すべる：防汚コーティング
物理情報工学科 教授 白鳥 世明

ウェットプロセス機能性薄膜
物理情報工学科 教授 白鳥 世明

低コスト・高耐久なダイヤモンドライクカーボン太陽電池
機械工学科 教授 鈴木 哲也

ダイヤモンドライクカーボン薄膜を応用した新規医療材料開発
機械工学科 教授 鈴木 哲也

気相高強度ナノクラスター源Nanojima®による超精密ナノ触媒の作製技術
化学科 専任講師 角山 寛規

精密ナノクラスター合成化学に向けた超微細マイクロミキサーの開発
化学科 教授 中嶋 敦

化学走性を示す液滴型マイクロロボット
応用化学科 助教 伴野 太祐

天然由来材料からなる微粒子マテリアルの開発とバイオ・化粧品素材への応用
応用化学科 助教 福井 有香

高機能光学デバイスの加工
機械工学科 教授 閻 紀旺

新素材のナノプロセッシング
機械工学科 教授 閻 紀旺

テラヘルツ偏光スペクトル計測による樹脂材料の内部異方性検査
物理学科 准教授 渡邉 紳一

社会・環境

社会システムのモデリングとセキュリティ
管理工学科 専任講師 飯島 正

防災減災のためのシミュレーションによる計画立案と仮想現実の活用
管理工学科 専任講師 飯島 正

スマートウェルネス住宅・都市の評価システム
システムデザイン工学科 教授 伊香賀 俊治

反応性流体の新たな展開
機械工学科 教授 植田 利久

モデルベースシステムズエンジニアリングに基づく車椅子のデザイン
機械工学科 専任講師 加藤 健郎

環境エネルギー関連材料
物理情報工学科 教授 白鳥 世明

組合せ最適化アルゴリズムに基づく配車配送計画
管理工学科 教授 大門 樹

ドライバーの認知特性・運転行動分析とHMI設計・評価
管理工学科 教授 大門 樹

マーケティングデータ解析
―顧客満足度とサービス品質の数値化、ECデータ分析―
管理工学科 教授 鈴木 秀男

大気中PM2.5の計測技術と除去技術
応用化学科 教授 田中 茂

リチウムイオン電池製造プロセスから排気されるNMPの回収・精製技術
応用化学科 教授 田中 茂

システム制御理論による超スマートシティ構築
システムデザイン工学科 教授 滑川 徹

都市公共空間における人々の自発的な利用介入に関する調査、自由が丘九品仏の事例調査
システムデザイン工学科 教授 ラドヴィッチ・ダルコ

その他

波動システム
システムデザイン工学科 准教授 桂 誠一郎

サーモフィルム
システムデザイン工学科 准教授 桂 誠一郎

ダイナミックアクチュエータ
システムデザイン工学科 准教授 桂 誠一郎

雛の誕生をアシストする卵殻のしくみ
応用化学科 准教授 犀川 陽子

体験をデザインする
～ヒトのこころの特性の工学応用～
管理工学科 准教授 中西 美和

ICTロボットが拓く建築の未来
システムデザイン工学科 教授 三田 彰

特別展示

公益財団法人
川崎市産業振興財団（IIP）

公益財団法人
横浜企業経営支援財団（IDEC）

産官学連携施設（経済産業省補助事業）
「慶應-神奈川ものづくり技術実証・評価センター」

PROGRAM OF EVENTS

理工学研究と産官学連携の「今」をご体感いただける、多彩なイベントプログラムをご用意いたしました。
魅力的なゲストと第一線で活躍する研究者たちが、それぞれのテーマについて熱く語ります。

www.kll.keio.ac.jp/ktm/

基調講演

10:40 - 11:30

大学を中心としたオープンイノベーションによる産学連携

Abstract

科学技術の発展のために、大学がその中立性を活かし、海外、インダストリーそして大学の研究、教育のリソースを連携させる中心となることにより、新しいブレークスルーを期待できます。それは多くの船が港に入り荷物のコンテナを交換しながら世界規模で経済が発展していくように、大学が技術や研究の港（ハブ）として科学技術、延いては世界経済の発展に貢献するものと確信しています。本講演では、慶應義塾大学が進める研究のオープンイノベーションのハブ化戦略についてお話しします。

10:40 - 11:00 ―― 全体概要

Panelist

慶應義塾 常任理事
真壁 利明

Profile

1947年生まれ。1970年慶應義塾大学工学部卒業、1972年大学院工学研究科修士課程修了、1975年同博士課程単位取得退学。1975年慶應義塾大学工学部助手、その後、専任講師、助教授を経て1991年理工学部教授。1995年理工学部電子工学科（電気工学科）主任、2001年大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻 専攻長、2007年理工学部長・大学院理工学研究科委員長、2009年慶應義塾常任理事、2013年大学名誉教授。専門はプラズマエレクトロニクス。工学博士。

11:00 - 11:30 ―― 事例紹介

Panelist

ナノイメージングセンター

慶應義塾大学 理工学部
生命情報学科 教授
岡 浩太郎

理工学部中央試験所は1960年に設立されて以来、主に学内ユーザーのために分析サービスを行ってきました。これらサービスの他に「産学官連携の場」と「学内装置・施設の有効利用」を目指した取り組みが最近になって着々と進められています。本講演では中央試験所を中心とした昨今の産学官連携の試みについてご説明し、本年7月に開所した「株式会社東陽テクニカ慶應義塾大学理工学部中央試験所産学連携室ナノイメージングセンター」をご紹介します。

ハプティクス研究センター

慶應義塾大学 理工学部
システムデザイン工学科 教授
大西 公平

ハプティクス研究センターは、遠方へ力触覚を伝達する新技術（＝ハプティクス）を世界で初めて実現し特許化されました。これをシーズとすると、産業分野や医療・福祉分野からの広範なニーズとの整合を図り、いわゆる死の谷を克服しなくてはなりません。このため、センター内に両者の出会いの場である「リアルハプティクス技術協議会」を設置し、企業の積極的な参加を呼びかけています。この協議会では、「リアルハプティクス知的財産権憲章」を制定しており、互恵の精神のもとで参加企業との共同開発が行われます。特に、開発環境の提供、ハードウェアやソフトウェアの開発、応用分野への展開への積極的な支援、国や地方自治体との協力関係構築などを通じて密接な連携を図っています。

超成熟社会創造オープン研究センター

慶應義塾大学 理工学部
情報工学科 教授
山中 直明

超成熟社会創造オープン研究センターは、先導研究センター内に開設したオープン研究センターです。少子高齢化と環境やリソースといった制限が発生する超成熟社会は、従来のような大量生産モデルでの発展は望めません。そのため、ICT技術を活用して、サステーナブルな社会を創造するために文理融合、産学連携、国際連携を行うオープンイノベーション研究センターをスタートさせました。本講演ではその枠組みと、代表的なセンター内の研究プロジェクトをご紹介します。

メインイベント

13:30 - 14:30

新国立競技場をつくる

Abstract

建築家・隈研吾の原点は東京オリンピックにある。

1964年東京オリンピック、当時10歳の隈少年は父親に連れられ、丹下健三のデザインした代々木体育館を訪れた。そのデザインに衝撃を受けたことが建築家を志すきっかけとなった。

紆余曲折のあった新国立競技場は、再度のコンペで大成建設・梓設計・隈研吾のチームが射止めた。そのデザインは、ザハ案の3分の2の高さに抑えて、木を積極的に用い、外苑の景色に溶け込んで温かみがある。

新国立競技場の設計を通じて、2020年の東京オリンピックへと「建築」を繋ぐこととなった建築家・隈研吾の哲学と思いを紐解く。

Panelist

建築家・東京大学教授
隈 研吾 氏

Profile

1954年横浜生まれ。1979年東京大学建築学科大学院修了。85−86年に米国・コロンビア大学客員研究員。1990年、隈研吾建築都市設計事務所設立。2001年～2008年、慶應義塾大学教授。2009年に東京大学教授に就任、現在に至る。
近年では、日本国内で、サントリー美術館（2007）、根津美術館（2009）、歌舞伎座（第五期・2013）、中央郵便局KITTE（2013）などを発表。海外では、フランスに、プザンソン芸術文化センター（2012）、FRACマルセイユ（2013）、ダリウス・ミヨー音楽院（2013）、エントレポット・マクドナルド（2014）、リヨン・コンフリュアンスHIKARI（2015）、中国・杭州で中国美術学院杭州民芸博物館（2015）などを完成させている。
海外での授賞歴には、2002年にスピリット・オブ・ネイチャー・ウッド賞（フィンランド）、2007年にベストグローバルデザイン賞（ちょっ蔵プラザ&シェルター）、2008年にはフランスのエネルギー・パフォーマンス建築賞などがある。また、RIBA国際会員、AIA（全米建築家協会）名誉会員も務めている。

［インタビュアー］
慶應義塾大学 理工学部
システムデザイン工学科 教授
三田 彰

［コーディネーター］
慶應義塾大学 理工学部
情報工学科 教授
山中 直明

ラウンドテーブルセッションⅠ

11:40 - 13:00

コンピュータに騙される人間の脳
――バーチャルリアリティとロボットに見る

Abstract

コンピュータの能力が進歩し、人間の脳を超える日が来るかもしれない、と言われていますが、本当にそうでしょうか？ データ検索速度や計算速度では既に人間の脳を超えていますが、一方で情景や文章の意味解釈といった人間の脳の能力をまだまだ超えることができない壁もあります。そもそもは、人間とコンピュータは競争するものではなく、協調しながら共に進化していくことが重要です。本ラウンドテーブルでは、コンピュータと協調する人間の脳の振る舞いに焦点を当てます。たとえば、風景写真のスケールをミニチュアサイズと勘違いしてしまったり、色の変化で動いていると誤解したりする「錯視」や、ロボットの振る舞いや見た目によって愛着・愛情を感じてしまう人間の感情など、「コンピュータに騙される人間の脳」という観点から、バーチャルリアリティやロボットにおけるコンピュータと人間の協調と進化について議論していきます。

Panelist

茂木 健一郎 氏

Profile

脳科学者。ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー。
1962年10月20日東京生まれ。東京大学理学部、法学部卒業後、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻課程修了。理学博士。理化学研究所、ケンブリッジ大学を経て現職。専門は脳科学、認知科学。「クオリア」（感覚の持つ質感）をキーワードとして脳と心の関係を研究するとともに、文藝評論、美術評論などにも取り組んでいる。

日本電信電話株式会社
コミュニケーション科学基礎研究所
主任研究員
木村 聡貴 氏

Profile

2003年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。同年、日本電信電話株式会社コミュニケーション科学基礎研究所に入社。2012年より現職。人間の運動の脳情報処理の研究が専門。とくに近年は、アスリートの高度な脳機能の仕組みやスポーツ上達支援に関する研究に従事。

日本電信電話株式会社
メディアインテリジェンス研究所
主任研究員
三上 弾 氏

Profile

1996年慶應義塾大学情報工学科入学、2000年卒業。同年慶應義塾大学大学院理工学研究科入学、2002年修了。同年、日本電信電話株式会社サイバースペース研究所（現在のメディアインテリジェンス研究所の前身）に入社。画像処理・コンピュータビジョンの研究に従事。スポーツ映像のハンドリングに強い興味を持つ。

慶應義塾大学 理工学部
情報工学科 教授
今井 倫太

慶應義塾大学 理工学部
情報工学科 教授
藤代 一成

［ファシリテータ］
慶應義塾大学 理工学部
情報工学科 教授
斎藤 英雄

ラウンドテーブルセッションⅡ

14:50 - 16:00

KLLが始める エンジェル活動と理工発ベンチャーを考える

Abstract

本ラウンドテーブルは、慶應義塾のベンチャーキャピタルと慶應義塾大学理工学部の卒業生でベンチャーを起業している先輩方を一堂に会し、大学発ベンチャーの可能性とその課題について議論します。
理工系大学の技術を社会で活用してもらうには、産学連携による技術移転と自らのスタートアップ（ベンチャー創成）が必要であると言われています。日本でベンチャーが育ちにくい理由として、「技術の可能性は十分にあるが、事業化の成功事例に乏しい」、また「エンジェル的に、資金投入するメカニズムがない」、「メンターとなる存在がおらず、起業のノウハウが得られない」などがあり、さらには、インキュベーションそのもののやり方がわからず、大学が取り残されているという側面も挙げられています。
KLLは、私学を代表する大学としてこれらのミッションに長年取り組んできました。そして、2016年度、スタートアップを積極的に進めるために、自らのリスクで初めてベンチャーをめざす学生を対象とした、活動資金（助成金）の提供をはじめとする各種スタートアップ支援を開始しました。具体的には、この資金を使って、アイディアを簡単なプロトタイプにし、ビジネスモデルや、起業、事業展開の仕方をイメージできるようにして、ベンチャーキャピタルにつなげていきます。さらに、慶應義塾ベンチャーファンドである慶應イノベーション・イニシアティブ（KII）やメンター三田会等と連携し、理工学部発のベンチャーを育てていきます。
KLLは、米国の一流私立理工系大学に追いつき追い越すべく、このような理工系大学としては先駆的な取り組みを通して、義塾内外の協力・連携体制を確立し、社会を豊かにする技術開発を促進していきます。

Panelist

イーソリューションズ株式会社
代表取締役社長
佐々木 経世 氏

Profile

慶應義塾大学大学院修了。日本鋼管（現JFEスチール）を経てマサチューセッツ工科大学でMBA取得。ブーズ・アレン・アンド・ハミルトン（現Strategy&）、ソフトバンクを経て、1999年にイーソリューションズを設立し代表取締役社長に就任。

株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ
代表取締役社長
山岸 広太郎 氏

Profile

慶應義塾大学経済学部卒。2015年12月、慶應イノベーション・イニシアティブ（KII）の設立と同時に代表取締役社長に就任。KII以前は、日経BP編集記者、CNET Japan編集長を経て、グリーを共同創業。10年間、同社副社長として事業部門などを統括（現在は非常勤取締役）。

株式会社ブイキューブ
代表取締役社長CEO
間下 直晃 氏

Profile

慶應義塾大学大学院修了。在学中、有限会社ブイキューブインターネット（現：株式会社ブイキューブ）を設立。「アジアNO.1のコミュニケーションプラットフォーム」の実現を目指し、海外展開を積極的に進めている。2013年12月にマザーズ上場、2015年7月に東証一部へ市場変更。経済同友会幹事。

AISSY株式会社 代表取締役
メンター三田会 事務局長
鈴木 隆一 氏

Profile

慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程修了。慶應から出資を受けてAISSY株式会社設立、代表取締役就任。主な著書に「味覚力を鍛えれば病気にならない」「日本人の味覚は世界一」

慶應義塾大学 理工学部
電子工学科 教授
粟野 祐二

［ファシリテータ］
慶應義塾大学 理工学部
機械工学科 准教授
森田 寿郎

連携技術セミナー

11:00 - 11:30

PM2.5粒子による健康影響メカニズムを探る

慶應義塾大学 理工学部
応用化学科 准教授
奥田 知明

近年、微小粒子状物質（PM2.5）の健康影響が懸念されています。PM2.5対策を進めるには、どのような物理化学的特性がその有害性に寄与するかを解明しなければなりません。ここでは、PM2.5粒子による健康影響メカニズムを探るための、バーチャルインパクターやサイクロン等の工学的アプローチをご紹介します。

14:50 - 15:20

ユビキタス光センシング技術がつくる未来のカタチ

慶應義塾大学 理工学部
情報工学科 准教授
杉本 麻樹

私達の身の回りの情報機器とセンシングシステムがネットワークを介して協調することで、ヒトとコンピュータが密接に触れ合うメディア体験を実現することができます。本セミナーでは、最新のユビキタス光センシングに注目しながら、インタラクティブメディア技術が創り出す未来をご紹介します。

15:40 - 16:10

ナノカーボン材料による次世代光・電子デバイス開発

慶應義塾大学 理工学部
物理情報工学科 准教授
牧 英之

カーボンナノチューブやグラフェンで知られるナノカーボン材料は、近年、光・電子デバイスへの応用が注目されています。本セミナーでは、シリコンチップ上に集積化が可能な超高速発光素子、絶対に盗聴が不可能な量子暗号通信に向けた「室温・通信波長帯」単一光子発生素子などをご紹介します。

16:40 - 17:10

超音波気泡の力学特性を利用した洗浄および食品加工

慶應義塾大学 理工学部
機械工学科 専任講師
安藤 景太

超音波照射下の液体および粘弾性組織では、炭酸飲料で観察されるような発泡が生じます。照射超音波の音響エネルギーは、発泡したガス気泡の体積振動に基づき、力学的エネルギーへと効率的に変換されます。本セミナーでは、気泡の有するエネルギー変換特性を利用した洗浄および食品加工をご紹介します。

※当日、やむを得ない事情により各イベント・セミナーの内容等を変更する場合がございますので、あらかじめご了承ください。